

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 平野区

学 校 名 長吉出戸小学校

学校長名 井上 泰志

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・長吉出戸小学校では、第6学年 59名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

<国語>

平均正答率は67.0%で、全国平均を0.7ポイント下回った。学習指導要領の内容から見ると、「言葉の特徴」に関する事項が3.0ポイント、「我が国の言語文化」に関する事項が5.1ポイント全国平均を上回ったが、「話す、聞く」の事項が7.3ポイント全国平均を下回った。評価の観点から見ると、「知識、技能」が全国平均よりも2.8ポイント上回ったが、「思考、判断、表現」は2.9ポイント全国平均を下回った。

<算数>

平均正答率は60.0%で、全国平均を3.4ポイント下回った。学習指導要領の領域から見ると、特に「変化と関係」と「データの活用」で全国平均をそれぞれ8.2ポイント、6.3ポイント下回った。評価の観点から見ると、「知識、技能」、「思考、判断、表現」でそれぞれ3.3ポイント、3.0ポイントで、共に全国平均を下回った。

<児童質問紙>

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対する肯定的な回答の割合は98.3%で、全国平均を1.6ポイント上回った。しかし、「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対する肯定的な回答の割合は81.7%と全国平均より3.1ポイント下回った。また、「自分にはよいところがあると思いますか」に対する肯定的な回答の割合は81.7%で、2.4ポイント下回り、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」に対する肯定的な回答も76.6%で、全国平均を9.7%下回った。更に、「将来の夢や目標を持っていますか」や「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問事項についても全国平均を下回った。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

本市施策の学力向上チーム支援事業におけるスクールアドバイザーの指導による校内研究活動（国語科）の充実により、授業力の向上を図った結果、「思考力、判断力、表現力等」の「A話すこと・聞くこと」の内容については、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる児童が多かった。

しかし、「B書くこと」の内容については、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することが難しい児童が少なくなかった。また、「知識及び技能」の「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」について、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができない問題もあった。

[算数]

チームティーチング等による個別最適な指導のための工夫や、学習でのICTの積極的な図ってきた結果、「数と計算」の領域では、計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できる児童が多かった。また、「図形」の領域では、角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を語彙と数を用いて記述することもできていた。

しかし、球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことが難しい児童もいた。また、「変化と関係」の領域では、道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できなかったり、速さの意味について理解できていなかったりする児童が少なくなかった。さらに、「データの活用」の領域では、円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができなかり、簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することが難しい児童も少なくなかった。

質問調査より

特別の教科道徳の時間を中心に、学期に1回以上いじめについて考える機会を持ったり、人権教育を計画的に実施したことで、児童のいじめに対する意識はさらに高まっている。
しかし、主体的・対話的で深い学びの実現に向けての実践の進捗は十分とは言えない。また、総合的な学習の時間等を使った体験的な学習活動やたてわり活動等の異学年交流を積極的に実施しているが、児童の自己肯定感や自己有用感が十分に向上しているとは言えない。

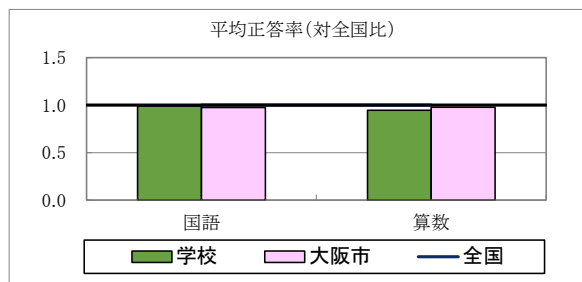
今後の取組(アクションプラン)

○ペアトークやグループトーク、全体交流などの互いの考えを出し合い、協力して考えを深め広める学習場面を多く設定していく。
○読解力、語彙力を効果的に向上させるために、国語科を中心として、教員の授業力の向上を図っていく。
○日常的な情報交換と学期に1回の事例交流会の確実な実施に加えて、いじめアンケートやICTを用いたスクリーニングを積極的に行うことによって、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努めていく。
○人権教育の実践を年間計画に沿って確実にを行い、校内外の実践交流会を通して、教員の指導力の向上を更に図る。
○宿泊行事、異学年交流、縦割り活動等の多彩な体験的な活動を計画的に実施し、児童が主体的に活動に取り組むことによって、自己肯定感や自己有用感を一層感じられるようにする。

【 全体の概要 】

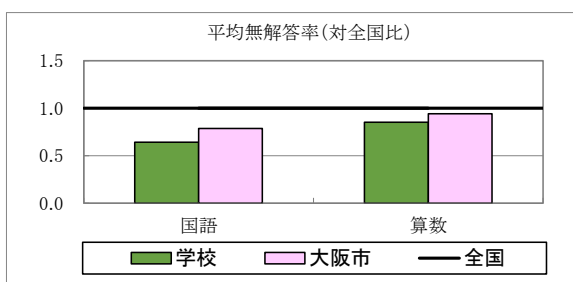
平均正答率（％）

	国語	算数
学校	67	60
大阪市	66	62
全国	67.7	63.4



平均無解答率（％）

	国語	算数
学校	2.7	2.9
大阪市	3.3	3.2
全国	4.2	3.4



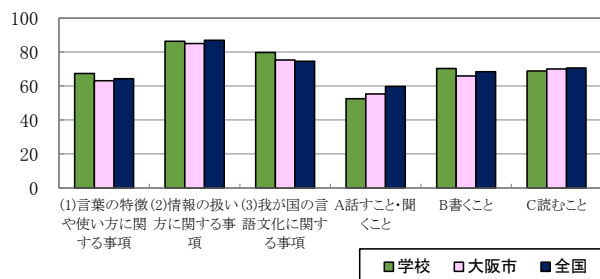
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	4	67.4	63.1	64.4
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	86.4	85.0	86.9
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	79.7	75.3	74.6
A 話すこと・聞くこと	3	52.5	55.3	59.8
B 書くこと	2	70.3	65.9	68.4
C 読むこと	3	68.9	70.1	70.7

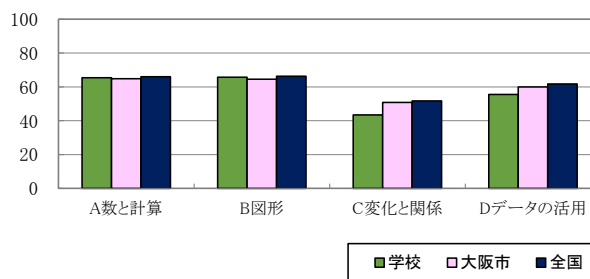
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	65.5	64.8	66.0
B 図形	4	65.7	64.6	66.3
C 測定	0			
C 変化と関係	3	43.5	50.8	51.7
D データの活用	4	55.5	60.0	61.8

国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)

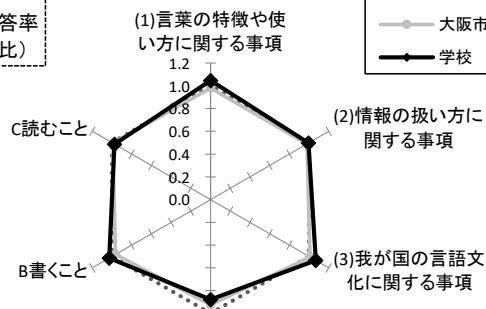


算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



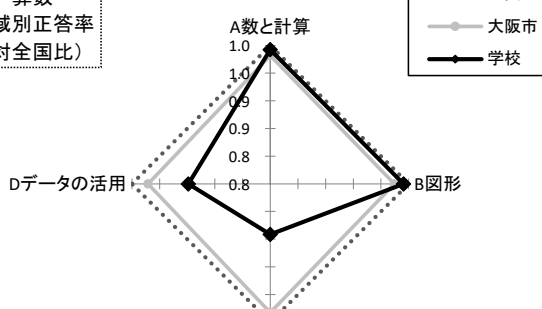
国語

内容別正答率
(対全国比)



算数

領域別正答率
(対全国比)



A話すこと・聞くこと

C変化と関係

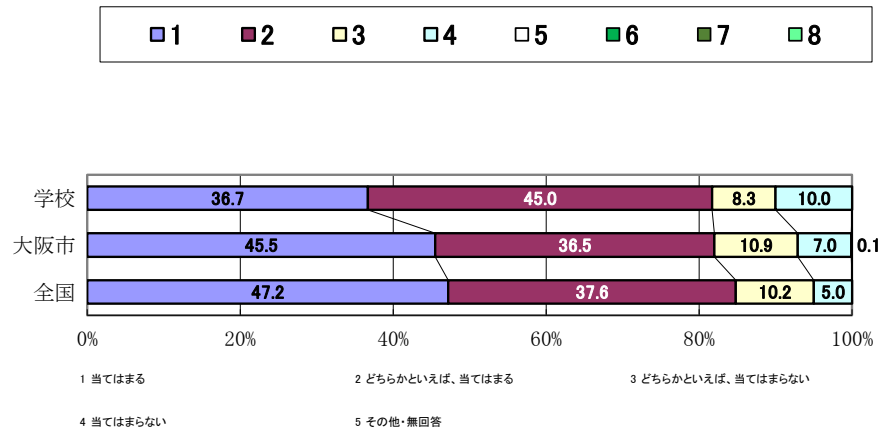
児童質問より

質問番号

質問事項

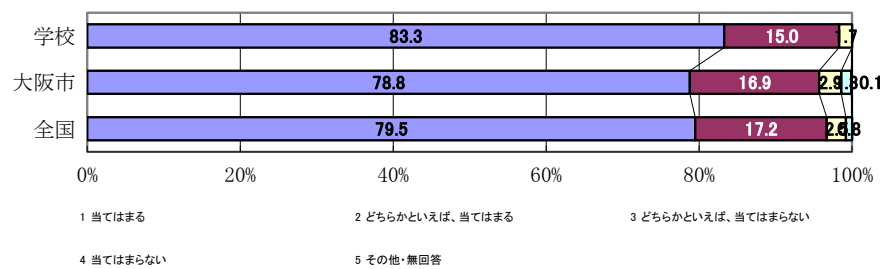
16

学校に行くのは楽しいと思いますか



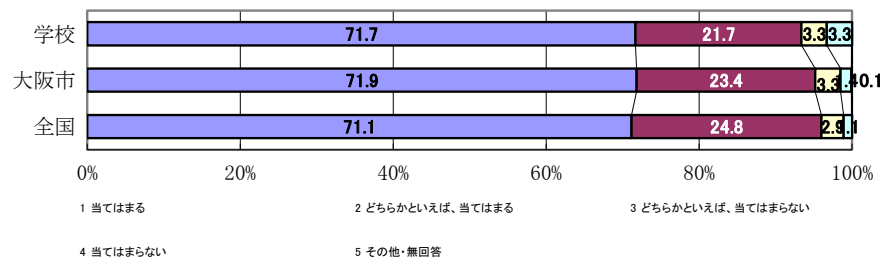
13

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



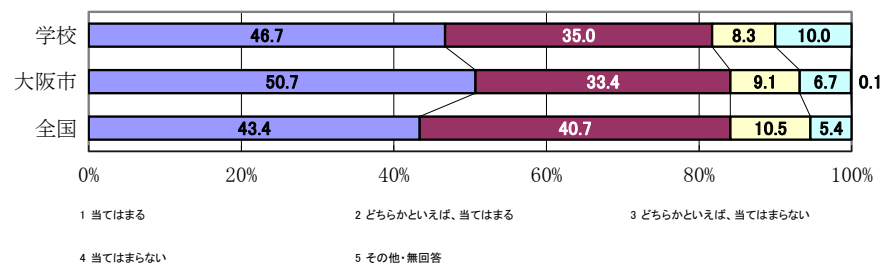
15

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



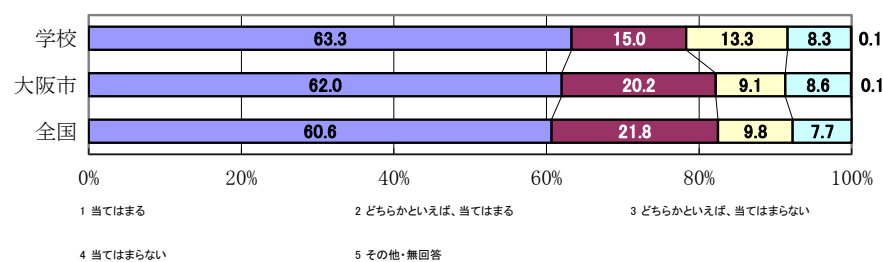
9

自分には、よいところがあると思いますか



11

将来の夢や目標を持っていますか

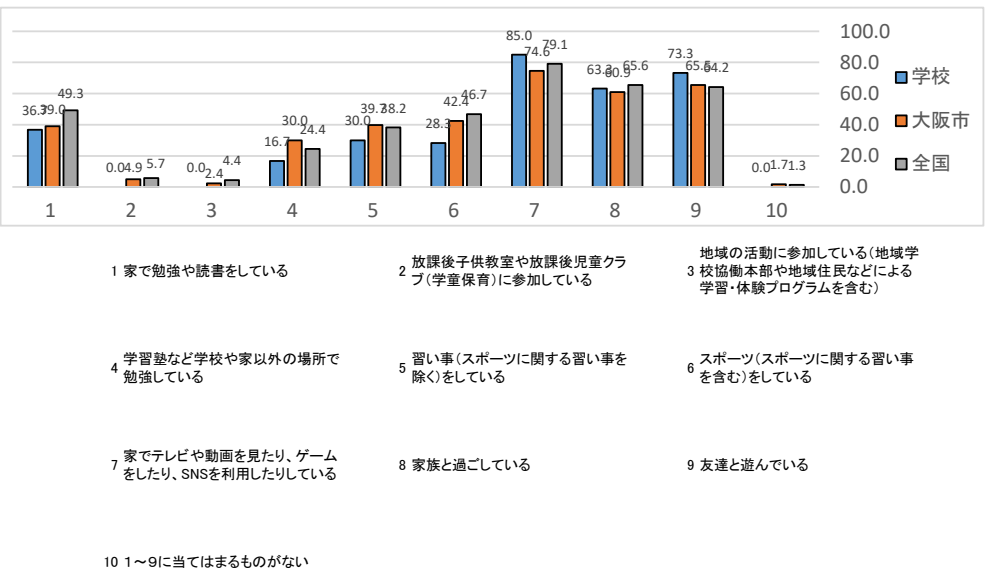


児童質問より(26)

質問番号
質問事項

26

放課後や週末に何をして
過ごすことが多いですか
(複数選択)



学校質問より

質問番号

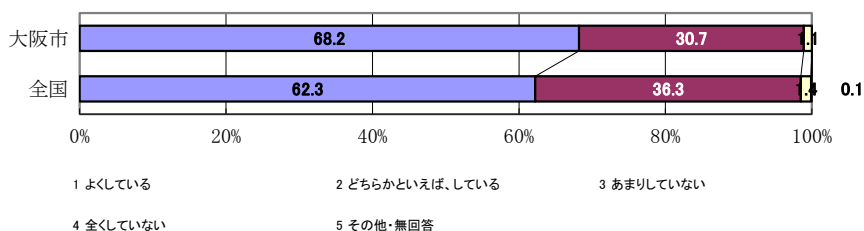
質問事項

16

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか



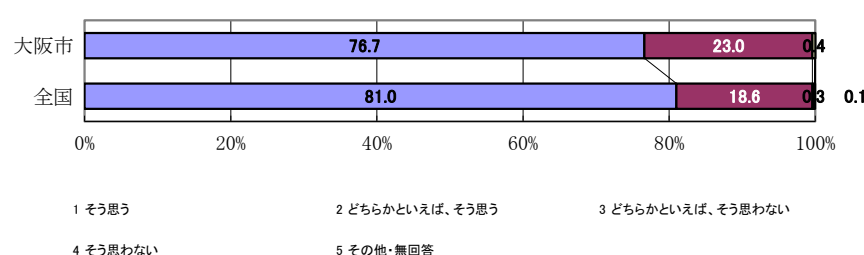
学校 「よくしている」を選択



21

各児童の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしていますか

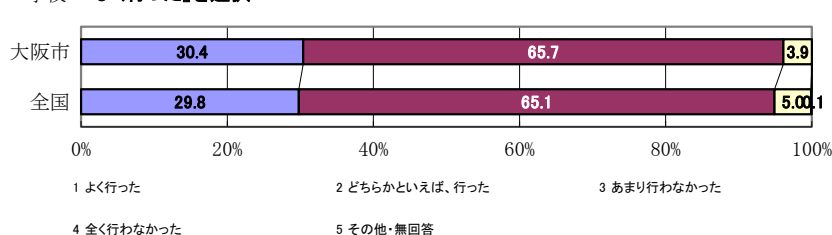
学校 「そう思う」を選択



43

調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行いましたか

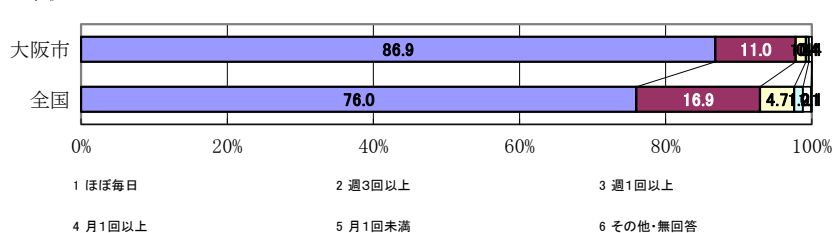
学校 「よく行った」を選択



53

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択



67

学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の児童に対する授業の中で、児童の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫等)をどの程度行いましたか

学校 「よく行った」を選択

